

未来ノート

-202Xの君へ-

スポーツクライミング

なら さき とも あ
榎崎智亜

無理強いしない

ニンジャの原点

医学部かプロか

最高のライバル

嫌々じゃないから長続き

何事も強制はしない。それが榎崎家の流儀だ。それけるには『楽しい』って思

例えば、榎崎智亜(23)が5歳から通っていた体操教室。いつも母が車で送迎してくれ

てくれた。ただ、体育館に到着した時、後ろの座席で眠ってしまったら母は起こさず、そのまま連れて帰った。「やっぱり長く続

ったからだ。「体操は好きだったんでしよう。練習態度は最後まで真面目でした」とは教室のコーチ、菅原良雄さん(61)だ。

食事も極度の野菜嫌い。

でも、直されなかった。母はニンジンやタマネギをすり下ろしてカレーに混ぜる工夫はしたが、無理強いはしなかった。だから、最近までカップ麺の粉末スープの中のネギも茶こしで取り除くほどだった。

自宅にテレビもなく、体操をやめた榎崎は時間をもてあました。スポーツクライミングを始めたのはそんな時だ。運動は好きだけど内向的で、他人と直接向き合うサッカーや剣道は苦手。「何かやってみたい」とはある？」と母に問われ、近所のジムで一度だけ

体験したことがあるクライミングを自ら希望した。

ここでも、両親は無理強いしなかった。周囲を見渡せば、壁の途中で落ちてしまった我が子に「なんであんなところで落ちたの!」と責める親も。だが、母は言う。「落ちてもいいじゃないですか。悔しいと思うなら、また頑張る。『自分

はここまでかな』と思うなら、楽しむ程度で続けたらいい。小学生なんてほめてほしい時期なんだから。怒られていた子、ほほやめちやって。うちの子なんかやりずっと強かったのに」

世界のトップクライマーに成長した榎崎は今、両親への感謝を語る。「おかげで今も、本当に楽しくやっています。ただなんですよ

ね」(吉永岳史)



8歳の時の榎崎智亜
Base Camp提供

2019年世界選手権の男子複合で優勝、東京五輪代表を確実にした

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。